

関心を寄せ、示すことから…

5月から町内会のお世話をするようになった。これまでも過去2回、その役が回ってきていたのだが、その仕事はほとんど妻に任せていた。その後ろめたさもあり、今回は、自分がという気持ちでやろうと思い立つ。回覧板の名簿、町費徴収簿等を作成し、全部で29軒の家庭を訪問しながらのご挨拶と町費徴収のお願い回り。結果分かったこと—今更言うまでもなく、いかに自分がご近所に住む方々の顔もよく知ろうとせずやり過ごしてきたかということの思い知らされ、反省した。

前任の方からの引継ぎでは、災害時等を想定し、毎月の回覧板は、原則手渡しで行うこと等、日頃の小さな関わりを大切にとの申し送りを頂いた。確かに、緊急時においての助け合い、ましてや人権への配慮は、町内で身近に生活しているご近所同士の日頃の繋がりが大切な場合が多いはずである。

今回の訪問で、配偶者に先立たれ、現在一人で生活されている70代の高齢者の方から、コロナ禍で近所の人の関わりが希薄になった等、生活上の不安についての話をお聞きした。

地域においても高齢者を対象とした取組が進みにくい状況がまだ続く中、自分にできること…。これまでおろそかにしていた声かけや挨拶など、相手に関心を寄せ、示していく行動から、まずは始めていこうと思っている。

(中村)

みんな 影響し合っている

居酒屋代の確保に、還暦過ぎてフードデリバリーのアルバイトをしている友人の話—

現金決済の場合は対面するから、意識なくても家庭が見えることがある。エレベーターのない集合住宅で上階まで届いたら、お年寄りに「家の中までお願いします」と頼まれた。居間には車椅子があったという。＜大変やなあ＞

土日祝日は大手ハンバーガーチェーンが人気で、玄関ベルを押すと、子どもが飛び出してくることが多い。「部屋にいなさい」と叱る親もいるが、その家庭では、子どもがいきなり握手を求めてきて、母親はその行動を見守っていた。障がいがあるようだった。10分前、彼が注文品を受け取ってきたバーガーショップは家族連れで賑わっていた。障がいの特性を周囲に理解してもらえない現実を重ねると、目が潤んだという。＜お店で食べさせたいなあ＞。

「人口100人でみた日本」(令和3年版厚生労働白書)によると、障がい者=7.6人／介護サービス利用者=4.0人／75歳以上=14.9人。彼はデリバリーをしながら白書の数字を実感している。動機はともかく、社会の課題に対処している意味ではソーシャルワーカーでもある。

友人は地域限定の配達員だから、その家には何度か届けているそうで、「握手を期待してつい、(バイクの)アクセルをひねってしまう」と話した。なるほど、私たちはみんな、影響し合って生きている。その夜の居酒屋談話はいつになく穏やかでした。

(蔵本)

ココロンセンター ライブラリー 人権問題に関する書籍、マンガ、絵本、DVDを入荷しました。貸出を行っています。ぜひ、ご利用ください。

新着マンガ紹介



「ケーキの切れない非行少年たち」(4巻)

著者：宮口幸治 漫画：鈴木マサカズ 発行所：新潮社

宮口幸治さんの原作を、鈴木マサカズさんがマンガに書き下ろしています。現在発行済みの4巻の中では、6名の少年・少女をめぐるストーリーが語られます。いずれの人物もホールケーキを3等分したりするのが難しく、それぞれ、知的障がいや発達障がいなどがあり、生きづらさをかかえています。しかし、医療少年院でドクターや教官と出会い、専門的なケアを受け、更生し、出所して生活する中で、周囲との軋轢に悩んだり、行き場を失ったりしながらも必死に生きようとする姿を描きます。

新着図書紹介



「注文をまちがえる料理店」

著者：小国士朗 発行所：あさ出版

テレビディレクターの筆者が、宮沢賢治の「注文の多い料理店」をモチーフに企画したのが、認知症の方々がスタッフとして働く「注文をまちがえる料理店」です。

2012年に、筆者がグループホームで、ハンバーグを注文したところ、餃子が出てきたエピソードから始まります。認知症の方々が安心して働けるレストランを作り出すことを目指して、様々な人を巻き込み、働きかけて、2017年6月に「注文をまちがえる料理店」プレオープンに漕ぎつけます。

「サラタが2回出てきたけど、スープはきませんでした。でもそれもまあいいかと思います。たいした問題ではない。それでいいんです。(来店者のアンケート 本文204pから引用)」という記述に見られる寛容さとあたたかさ。まちがいを楽しむ雰囲気—。それを創り出した方々へ拍手を贈りたくする本です。

CONTENTS「主な内容」

- こころのオルゴールのマンガ紹介 1P
- ココロンセミナー / 所長就任あいさつ 2P
- 校区人尊協紹介 3P
- 人権啓発指導員コラム / 新着図書・マンガ紹介 4P



人権ラジオ番組をマンガに 学校や職場で活用を



福岡市が制作する人権ラジオ番組「こころのオルゴール」(令和3年度版)がマンガ本になりました。マンガにしたのは全ドラマ20本のうち、「シトラスリボンに願いを込めて」(新型コロナウイルス)▽「認知症になっても地域で見守りを」(高齢者)▽「パワハラは職場全体の問題」(ハラスメント)一の3本。1部8ページ、A5判サイズ。学校や職場での人権教育、啓発に活用してください。無料で提供します(部数については要相談)。令和2年度版もあります。

また、セリフ入りの動画「モーションコミック」も制作しました。福岡市人権啓発センターのホームページからYouTubeで閲覧できます。

お問い合わせ 福岡市人権啓発センター 092(717)1237

「ココロンセンターだより」 No.88 発行：令和4年6月 福岡市人権啓発センター

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号健康づくりサポートセンター(あいれふ)8階
E-mail:jinkenkeihatsu.CAB@city.fukuoka.lg.jp

TEL092(717)1237 FAX092(724)5162

ココロンセンター 福岡

検索



TEL092(717)1247(人権啓発相談室)

ココロセミナー ～考えてみませんか？あなたの人権 わたしの人権～

福岡市人権啓発センターでは、人権問題を身近に考えていただくためのセミナーを年6回開催しています。今回、前期3回（7、8、9月）の受講者を募集します。あなたの身の回りにある人権について学んでみませんか？

○スケジュール○

第1回 7/16 土 14:00～16:00
【テーマ】「無関心」でいられても、「無関係」でいられない人権・部落問題
 公益財団法人反差別・人権研究所みえ 常務理事兼事務局長 **まつむら もとき 松村 元樹 さん**
 写真:Masaru Goto/Reminders Project

第2回 8/27 土 14:00～16:00
【テーマ】なっちゃんの花園 ～在日二世のおばあちゃんの人生～
 作家・詩人 **りょう みちこ 寮 美千子 さん**

第3回 9/17 土 14:00～16:00
【テーマ】知っておきたい「ヤングケアラー」のこと ～子どもの人権を守るために何ができるか～
 大阪歯科大学医療保健学部教授 **はまし よしえ 濱島 淑恵 さん**

会 場 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号 あいれふ10階「講堂」
定 員 等 各回80人 事前申込要（先着） 受講料無料
申込方法 ホームページの申し込みフォームから。
 または、電子メール・FAX・はがきの場合は、件名「ココロセミナー 第〇回申し込み」とし、氏名・連絡先（電話番号・メールアドレス）を必ず記載してください。

所長就任あいさつ

人権啓発センター 所長 吉田 命

本年4月に着任しました。前の所属は、こども未来局というところで、障がい児への支援に携わっていましたが、障がいといっても、知的障がいから身体障がいなど、種類も障がいの程度も様々あり、その人それぞれで必要とされる支援も異なるという状況で、まさに多様性というものを日々意識してきました。この人権啓発センターでも、これまでの経験をいかしていきたいと思ひます。

さて、福岡市では、すべての市民の人権が尊重される人権感覚豊かな明るい社会、国籍や年齢、性の違い、障がいの有無などに関わらず、多様性を認め合う共生社会の実現を、目指しています。

人権問題は、同和問題、女性、子ども、高齢者、障がい者、外国人、HIV感染者等さまざまであり、最近では、インターネットやSNS上での誹謗中傷、職場におけるハラスメントなど新たな課題も出てきているところですよ。

時代とともに人権課題も変化していきますが、今後も人権を尊重し、お互いの多様性を認め合うような意識を高めてもらうよう、啓発に取り組んでまいります。

人権啓発センターでは、人権問題への理解を深めてもらうイベント、「ハートフルフェスタ」、人権問題をテーマにした講座「ココロセミナー」の実施、テレビCMやラジオ番組「こころのオルゴール」の制作や、12月4日から12月10日までの人権尊重週間に講演会、人権作品展示など、数々の啓発事業を行っているほか、さまざまな人権問題の相談に応じる、人権啓発相談室を設けるとともに、人権に関する図書、DVD、啓発資料等の閲覧・貸出を行っています。気軽にセンターにお立ち寄りください。

◎ガンダム出現 人権啓発の援軍に

～那珂校区人権尊重推進協議会～

那珂校区には、大型商業施設「ららぽーと福岡」が4月に開業し、人気アニメ「機動戦士ガンダム」の立像（高さ25メートル）がエリアのランドマークになりました。交流人口がグーンと増えるなど地域は変容していくでしょうが、前向きにとらえて活動したいですね。

コロナ禍で自粛していたイベントは昨年12月24日の人権研修会をもって再開し、博多区出身の手笛奏者・なかしま拓さん（26）を講師に招きました。なかしまさんは、買えなかった楽器の代用として、組んだ手のひらの空洞に息を吹き込んで奏でるハンドフルートを独学で習得したそうです。講話を交えた演奏に、出席者からは「逆境と思えることも自分の力に変えていく力に涙が止まらなくなりました」などの感想が寄せられました。あらためて人権研修会の大切さを確信しました。

コロナ禍でさまざまな人権問題が浮かび上がったように、近年の人権テーマは多様です。気が付けば2年前から、セーラー服と詰め襟だった中学生の制服が性別で分けないブレザータイプの標準服に変わっていましたが、LGBT（性的少数者）の性自認について人権研修会で学んでいたことが、こうした時代の変化を理解しやすくしてくれました。

◇欠かせない学校との連携

校区内の那珂小、那珂中の児童生徒から募集する「人権標語」「人権ポスター」は活動の柱の一つです。各学年から選ぶ優秀作は毎年、人尊協だより「なかよし」に掲載しています。3月に掲載した標語の中からいくつか紹介すると一

「一人いない つながらないよ 笑顔の輪」（小6）
 「その差別 暴力よりも 痛いんだ」（中1）
 「考えよう 仲が深まる 一言を」（中3）

作品の優劣ではなく、人間関係の在り方を自分なりの言葉で考える作業は、子どもたちの成長過程でとても大切なことです。標語は、カレンダーや街頭啓発で配布するポケットティッシュに印字したり、看板掲示したりして活用しています。学校との連携は欠かせません。

◇「安心のまち」を下支え

工場や事業所の多かった校区は近年、マンション建設に伴い新住民が増え、現在、約1万5000世帯を数えます。小・中学校とも市内有数のマンモス校になっています。

那珂自治協議会が目標にする「安心して暮らせるまち」を、人権啓発の視点から下支えするのも人尊協の役割です。30年以上、アニメ界に君臨するガンダムの出現は、校区にとっては心強い援軍です。今年は、人権標語やポスターの主役になってくれそうです。



標語入りの配付用マスク